お知らせ

★WA規則第143条（TR5:シューズ）改訂規則の国内適用について（概要）

①トラック競技において、WAシューズ改訂規則を適用しない場合は、規定外のシューズ使用についてリザルトに明記して記録申請を行うこと。

②トラック競技において、WA改訂規則を適用した場合は、規定外シューズ使用者の扱いについて「失格扱い」とする。

※レース前に確認した場合は出場を認めない、招集所で確認できなかった、あるいは事後に確認された場合は記録抹消の扱いとする。

③フィールド競技のシューズに関して2020年11月30日までは、WA改定前規則に準じたシューズの使用は認められる（適用は12月1日以降）。

※シューズ検査の必要はなく、記録申請に関しても特段の操作の必要はない。

④2020年12月1日以降については、国内においてもWAシューズ改訂規則が完全適用されるのでトラック競技・フィールド競技とも規定外のシューズ使用は認められなくなる。

＊WA規則第143条（TR5:シューズ）改訂規則の詳細については日本陸連ホームページをご覧ください。

★男子第75回・女子第36回兵庫県郡市区対抗駅伝競走大会の会場変更について

新型コロナウイルス感染拡大防止と参加者および大会関係者の安全・安心と健康を考慮し、下記の理由により今年度は加古川河川敷マラソンコースでの実施が困難であると判断し、三木総合防災公園陸上競技場周辺コースに会場を変更し、令和3年2月7日（日）に開催することになりました。なお、大会要項は11月中旬に兵庫陸協ホームページに掲載します。

<変更理由>

① ３密を回避するため待機用テントの使用ができない。

② 河川敷でのテントの使用ができない状況は防寒対策が難しい。

③ 簡易トイレ、手洗場の数が少なく衛生面で問題がある。

★兵庫陸協主催マラソン大会の開催中止について

・31回六甲シティマラソン（令和2年11月８日）
・10回神戸マラソン（令和2年11月15日）
・32回三田国際マスターズマラソン（令和2年12月13日）
・43回西脇子午線マラソン（令和2年12月13日）
・32回加古川マラソン（令和2年12月20日）
・７回世界遺産姫路城マラソン（令和3年2月28日）
・41回丹波篠山ＡＢＣマラソン（令和3年3月7日）

兵庫陸協だより　編集委員会

宮永　正俊（編集委員長）　西盛　康子（編集副委員長）
田中　暢人　秋山　秀文　山本　紀子　藤田　和洋
岡田　愉久　吉井　克行　富永　大貴　三原　充廣（委員）
井澤　孝彦（事務局）

発行　一般財団法人兵庫陸上競技協会
〒651-0076 神戸市中央区吾妻通４－１－６
神戸市生涯学習支援センター内
TEL:078-231-1771　FAX：078-231-1772
http://www.haaa.jp

発行責任(一財)兵庫陸上競技協会広報委員会　2020年11月1日　第４号

挨拶文

一般財団法人兵庫陸上競技協会
会長代行副会長　吉井　道昭

１月中旬に感染ニュースが報道された新型コロナウイルスは、２月には急速な感染拡大となりました。

その影響で、世界のスポーツの祭典である、2020東京オリンピック・パラリンピックは延期となり、各種スポーツ界からも随時中止・延期が発表されました。

日本の陸上競技界も都道府県対抗戦試合である、国民体育大会・全国都道府県対抗男子・女子駅伝競走大会の３大会が中止となり、日本陸上競技選手権大会も延期が発表されました。

私たち、兵庫陸上競技協会の関連競技会でも中止・延期等の対応を余儀なくされ、選手やファンの方々には、大変なご迷惑をお掛けすることになりました。

現在は、社会の情勢を考慮しながら「コロナと共に」の競技協会の開催を目指して、選手の方々には、競技に対するクオリティ・モチベーションの向上維持に向けた競技会を、日本陸上競技連盟ガイドラインを中心に、国・県・市の政治判断を踏まえて模索しております。

また、一般県民の方々には、人生100年構想の中での健康づくりに寄与すべく「健康寿命の延長」を目指した「ウエルネス陸上の普及・発展」をビジョンに掲げ、各年代に即した陸上競技を楽しみながら心豊かな健康生活を送って頂けるように、地域の指導者養成・クラブチーム設立等を考えております。

県民の方々が楽しみにしておられる「都道府県対抗戦試合である３大会の選手強化策」と並列し「社会に貢献する兵庫陸上競技協会」として皆さま方と共に歩んでいきたいと考えております。ご支援・ご協力よろしくお願い申し上げます。

2020年度より新しく審判功労賞を新設いたしました。

＜公認審判員定年制について＞

1. 80歳を迎える年で定年とし、次年度の審判講習会において兵庫陸上競技協会から功労賞を贈呈する。
2. 功労賞贈呈規定については、76歳～80歳の5年間で兵庫陸上競技協会主催競技会に年間４競技会もしくは、通算20競技会以上の競技会出席者を対象とする。
3. 新年度から兵庫陸上競技協会主催競技会の審判依頼は、送付しない。郡市区競技会には、審判依頼をする。

2020年度功労賞受賞者（13名）

名塩　弘	尼崎市陸上競技協会
林　隆夫	西宮市陸上競技協会
東原　武	神戸市陸上競技協会
筒﨑博子	神戸市陸上競技協会
吉元正記	神戸市陸上競技協会
岩元辰男	神戸市陸上競技協会
渡辺信義	神戸市陸上競技協会
石堂俊一	神戸市陸上競技協会
間中俊夫	神戸市陸上競技協会
為本　寿	神戸市陸上競技協会
岡本敏信	西脇市陸上競技協会
堀川博司	姫路市陸上競技協会
原　尚生	姫路市陸上競技協会

加入団体紹介

宝塚市陸上競技協会

宝塚市陸協では、市内の様々な大会を通して、子どもたちや市民アスリートの活躍の場を支えています。冬季は、阪神都市対抗駅伝、郡市区対抗駅伝に向け、市内中高生の駅伝練習会を月に2～3回実施し、市出身の大学生、社会人選手も招いて、中高生中長距離選手の育成を図っています。夏季は「小学生かけっこ教室」に市内高校の顧問と部員を派遣し、子どもたちに陸上競技の楽しさを教えています。2019年度は、市内中学では、安倉中学校の宇都宮諒平選手が全日本中学校選手権の男子砲丸投げ第5位、御殿山中学校の中尾恭吾選手が全日本中学校陸上競技大会の男子100mで出場、県中学総合体育大会では御殿山男子リレーチーム（牧野和生・森本ゆう・辰巳蒼真・中尾恭吾の各選手）が4×100mリレー7位入賞、宝梅中学校女子と南ひばりガ丘中学校男子が駅伝の県大会に出場、市内高校では、宝塚高校の中本香選手が全国高等学校選抜陸上競技大会2000mSCで日本歴代5位・近畿高校新記録で優勝、U20クロスカントリー日本選手権8位入賞、U18日本選手権大会で宝塚東高校の鶴崎誠選手が男子円盤投第2位、宝塚北高校の木子雄斗選手が男子走高跳10位、宝塚高校女子が近畿高校駅伝に出場と目覚ましい活躍がありました。今後とも宝塚市陸協の活動にご協力をお願いいたします。

高砂市陸上競技協会

高砂市陸上競技協会の成立は、昭和33年に高砂市体育協会が設立されたことに始まっている。昭和46年7月にアンツーカー仕様の第二種の陸上競技場が完成。その当時、この競技場でNHKのラジオ体操が行われ、多くの市民が参加し、全国に実況放送された。

その後もこのよく整備された陸上競技場で、市民大会、小学生大会、市内中体連大会が開催され、市民が陸上競技を楽しみ、また自らの記録に挑戦していく場となっている。

昭和61年に始まった「高砂マラソン」も本年度で35回目を迎える
はずであったが、新型コロナウィルス関連で中止せざるを得なくなった。この大会では、親子が中心の1マイルのジョギングから、小学生、中学生、一般男女（80歳を超える高齢者も）の10マイルまで、1,000人を超える参加者があり、ランニングすることへの楽しさを体感していただいている、と自負している。

また、体を動かすことの〝楽しさ〟を実感してもらおうと、小学生を対象に、毎週土曜日に専門家の指導による「陸上教室」を開催している。30年続いているこの教室では、〝やらされる〟ではなく、自らの頭で考え、新しい動きを体得していく、ことを狙いとしている。

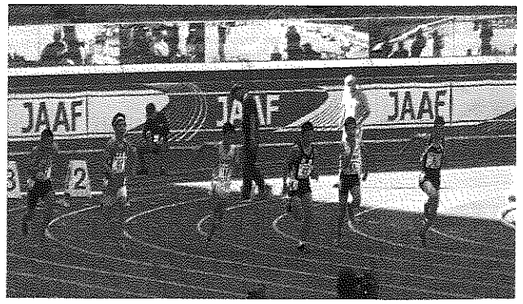
これからも市民が陸上競技に関心を持ち、自ら参加し、健康な市民生活をおくることができるよう、応援・活動していきたいと考えている。

たつの市陸上競技協会

○令和元年度は小学生と郡市区駅伝において大活躍をしました。

※たつの市立誉田小学校　松本明樹君が全国大会において１００ｍに出場、11”87で全国優勝を成し遂げました。この記録は兵庫小学生新記録でした。

たつの市では小学生が過去全国大会で優勝した選手は８０ｍHが1人、１００ｍが２人で3回優勝しており、トータルで今回4回目の優勝者となりました。



松本明樹君４レーンで優勝
2019年8月10日　横浜市で行われた全国小学生交流大会
（誉田小学校村田裕章先生提供）

※第７４回男子郡市区対抗駅伝競走大会において過去最高の３位入賞に輝きました。

神戸新聞　20

2～4区首位
躍進に大喜び

たつの男子

○…4部たつの市男子は2～4区で首位に立ち、3位から3位へと躍進した。原動力は1区石原翔太郎選手(18)＝岡山・倉敷高3年＝と2区松尾昂来選手(18)＝西脇工高3年。全国高校駅伝1区で5位の石原選手は「地元兵庫で楽しもう」と4位に。「役割は果たせたかな」と笑った。

男子・たつの市の4区鳴瀬弘将選手(右)から5区渡井拓海選手にたすきをつなぐ＝いずれも加古川市加古川町友沢(撮影・中西幸大)

初優勝はできなかったが「高校３年カルテット」が力を発揮しました。

いつかは優勝をしたいと夢は膨らみました。

女子も第２９回大会では姫路市に１秒差２位の経験があり是非とも念願の男女初優勝をしたいと思います。

○令和２年度のたつの市主催大会はコロナの影響により、下記の通りです。

新型コロナウイルスの感染予防対策のため、たつの市民大会や中学生の記録会、西播大会
など９競技会を中止いたしました。

今後の大会については兵庫陸協の感染予防対策に従い万全を喫して実施予定です。

揖保郡陸上競技協会

郡陸協といっても揖保郡の構成町は太子町のみであり、陸協としては小さな組織ですが、小さいながらも陸上競技の普及啓発、発展に努めています。

揖保郡陸上競技協会として単独での大会開催、運営は非常に困難ですので、平成の市町合併前からつながりの強い、隣のたつの市陸上競技協会と協力して大会等開催しています。

11月の小学生陸上競技大会、2月の小学校駅伝競走大会が主要大会であり、陸上競技の底辺拡大に努力していますが、残念ながら、今年度は新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から、11月の大会の中止を決定しました。

また、毎年夏季に、太子町教育委員会とタイアップして小中学生を対象にした一日陸上競技教室を開き、実業団選手に直に指導を仰ぐ機会を演出しています。

このように、当陸協では、将来を担う若いアスリートに焦点を当て、普及啓発を行っているところです。

太子町には、全天候型第三種公認陸上競技場である「太子町総合公園陸上競技場」があり、近隣の播磨地方の市町のみならず遠方地域のアスリートにも中体連大会を中心に利用されており、環境的には非常に恵まれています。ただ、今年度はちょうど公認更新のための競技場改修の年で、今冬に工事が予定されています。

来春には、新型コロナウイルス禍から抜け出し、公認更新された陸上競技場で躍動するアスリートの姿がみられることを期待しています。

揖保郡陸上競技協会　理事長　栄藤雅雄

養父市陸上競技協会

養父市陸上競技協会は、養父市スポーツフェスティバルに合わせて「養父市陸上競技選手権大会」を開催している。公認の陸上競技場を持たない養父市であるが、ぜひ、養父市の子どもたちに陸上競技を経験させてやりたいと始めた大会である。陸協役員だけでは大会運営は難しく、市内小中学校の先生方を始め、市内外の陸上競技に関わってこられた方々、中･高等学校の生徒のみなさんの協力を得て、子どもたちが初めて経験する本格的な陸上競技会として実施してきた。公認競技場でないため大会の記録はあくまでも参考記録ではあるが、レースは真剣で、熱い戦いに、観衆の温かい声援が響いている。さらに、社会人アスリートの観客を圧倒する走りは、子ども達の良い見本、憧れになっている。

この大会で陸上競技をスタートした子どもたちが、但馬中学校駅伝大会男子７連覇(養父中)、郡市区対抗駅伝大会女子４部優勝を成し遂げるなど、この大会が養父市の陸上競技発展の礎となっていると自負している。

2009年第２５回ユニバーシアード競技大会(ベオグラード大会)ハーフマラソン２位の津崎紀久代選手、2019年茨城国体４００ｍ２位の池田弘佑選手も小･中学生で本大会を経験した一人である。
本年８月に、第２３回大会を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、残念ながら中止することとなった。しかし、来年度は、オリンピック

イヤーに相応しい、養父市の陸上競技振興と子どもたちの競技力向上のベースとなる大会として、ぜひ実施したいと考えている。

南あわじ市陸上競技協会

まずは、このコロナ禍での兵庫陸協関係の皆様のご苦労ご尽力に感謝申し上げます。

さて、南あわじ市陸上競技協会の取り組みと致しましては、昨年１１月２４日（日）に開催された男子７０回、女子３５回近畿高校駅伝競走大会について報告致します。

淡路島では、過去に旧五色町（現洲本市）で行われていましたが、近畿各府県持ち回りの形で開催されることになり、昨年度より、兵庫（南あわじ市）開催となっております。スタート地点は、国生み神話の発祥地、おのころ島に由来する、おのころ神社をスタートし、三原中学校ゴールの男子２周、女子１周のコースで実施されます。南あわじ市陸協としましては、後援の淡路陸協（淡路島内３市陸協）の一員とし、競技役員、監察員として大会に携わっています。また、同じく後援の南あわじ市教育委員会では、陸協OBで教育長に浅井伸行氏、教育委員長に轟孝博氏の両先生方にも、ご尽力いただいております。

南あわじ市での大会期間中、男子では2019年度７０回大会と2024年度７５回大会、女子では、2022年度３８回大会が記念大会で、近畿各府県優勝校以外で男女最上位の学校が近畿枠で出場します。このような大きな大会に携わるれる喜びをかみしめながら運営、協力に勤しみたく思います。　また、今秋無事に近畿駅伝大会が開催されますよう切に願っています。

南あわじ市陸上競技協会　中島　健

クラブチーム紹介シリーズ①

近年、県下各地にクラブチームが発足し、そこで陸上競技に親しみ競技力を伸ばしてきている児童が増えています（登録条件については兵庫陸上競技協会HP　普及委員会参照）。
各チームから大会において優秀な成績を残しています。
シリーズ①では尼崎ACと淡路ACの２つのランニングクラブチームを紹介いたします。

尼崎ＡＣ

1．名　称：　尼崎AC
2．読　み：　あまがさき　えーしー
3．代表者名：　北村　勇飛　（きたむら　はやと）
4．創立年：　2019年
5．所在地：　〒661－0982　兵庫県尼崎市食満5丁目19-206-5
6．連絡先：　☎0797-25-1684　まで
7．メールアドレス：　info@athlon.jp
8．練習場所：　アスロンプレイス（アスロン専用グラウンド）
9．練習日数：　毎週月、木、土（いずれか）
10．練習時間：　月曜：17:10～18:40、木曜：17:00～18:30、土曜：9:00～10:30
11．参加者：　60名（9月1日現在）
12．クラブの指導理念・方針

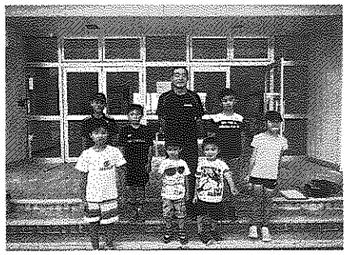
私たち尼崎ACは子どもたちの「できた」を応援しています。
子どもたち一人一人が目標を設定し、その目標を達成するための努力、振り返りを日頃のレッスンからおこなっています。自身で決めた目標を達成することで、「達成感」「喜び」を感じ、やる気の継続に繋がります。
設定した目標も「足が速くなりたい」や、「大会で上位を目指す」など個々のレベルに応じて目標を掲げて頑張っています。
子どもたちが主体となっておこなう活動はここでしか経験できません。

（尼崎ACの練習風景から）

淡路ＡＣ

1．名　称：　淡路アスレチッククラブ
2．読　み：　あわじあすれちっくくらぶ
3．代表者名：　岩本　和也
4．創立年：　1970年
5．所在地：　〒　656－1336　兵庫県洲本市五色町上堺985-102
6．連絡先：　☎090-2049-3693　　まで
7．メールアドレス：　iwamoto　@ awajicity.net
8．練習場所：　主に洲本市市民交流センター
9．練習日数：　月に2.3回
10．練習時間：　1時間30分～2時間
11．参加者：　11名（９月15日現在）
12．クラブの指導理念・方針

走るのが遅いのには理由があります。素質がないわけではありません。足が速い子には理由があります。でも早熟なだけかも知れません。コツを覚えれば体が軽くなります。
かけっこの苦手（キライ）な子どもが楽に速くはしれるようにとはじまました。


(練習後に撮影しました)

兵庫県内には、現在三十数チームのランニングクラブが登録されています。走ることだけでなく礼儀や挨拶、友達を思いやる心が育つなど健全な育成にもつながります。
今回から各地域において小学生を中心として活動するクラブチームを紹介していきますので、ご期待ください。（普及委員会）

各地域で活動しているクラブチーム

尼崎市	尼崎AC	加古郡	稲美AC	宍粟市	ちくさRC
西宮市	NOBY T&F		はりま陸上	相生市	相生陸上
芦屋市	ｱｽﾛﾝAC		TRINITY. AC	赤穂市	赤穂JRC
	A&C ASHIYA		KSSRC		赤穂陸上
神戸市	会下山RC		いなみ野陸上	赤穂郡	上郡陸上
	西川RAC	高砂市	北浜JRC	三田市	駒ヶ谷AC
	T&F KOBE	三木市	三木JRC	丹波市	丹波JRC
	有野台NAC	加東市	ﾌﾞﾙｰｳｪｰﾌﾞAC	美方郡	いまごKC
	北五葉NAC	姫路市	安室RC	朝来市	但馬AC
	岩岡AC		姫路市陸上		ASAGO T&F
明石市	明石JRC		姫路AC	淡路市	淡路陸上
加古川市	加古川RC	神崎郡	神河陸上		淡路AC

感染症対策を考慮した安全な競技会の実施
～2020兵庫選手権における医務活動を中心に～

【競技会再開までの経緯】

COVID-19による感染症の拡散，いわゆるコロナ禍により，長期間競技会が中止されていた。兵庫陸上競技協会（以下兵庫陸協）でも日本陸上競技連盟（以下日本陸連）に倣い6月までは自粛期間とし，7月からの競技会再開にあたり，医療体制の構築と感染症対策方針の策定を行い，7月11日から12日の兵庫選手権の開催に向けて準備にあたった。この時，すでに日本陸連より『陸上競技活動再開のガイダンス』の第１版が6月11日に発表されていたため，このガイダンスを参考にしながら，大会の規模や兵庫陸協が有する医事委員会の人的規模，医療資機材，競技会場の実情などに合わせて策定した。まず兵庫陸協事務局により，無観客での実施やADカードによる入場規制とその方法などの基本運営を決定し，次にその運営方法に沿うよう，医事委員会として感染症対策を踏まえた細部の活動方針を決定した。なお，現在この陸連ガイダンスは第２版（8月11日改訂）が発表されている。

【兵庫陸協主催大会における医務活動】

昨年までも，兵庫陸協では競技会開催時の安全管理として医師1名，看護師1名，トレーナー複数名の医務室での常駐と，競技会場内の3～5カ所程度（大会規模による）へのトレーナーの分散配置により，競技エリアとウォーミングアップエリアの安全確保に努めてきた。医師とトレーナーは医事委員会に原則所属しており，トレーナーは日本陸連の医事委員会トレーナー部に所属の方に限って活動をお願いしている。トレーナーの配置はあるが，コンディショニングとしての対応は原則行わず，競技エリアやウォーミングアップエリアの事故の予防，傷病発生時の現場での対応と，その後の応急処置を主たる業務として活動を行なっている。

【感染症対策】

新型コロナウイルスによる感染症対策として，以下の項目ごとに活動方針と内容を決定し，周知徹底を行なった。

・医務活動の人員

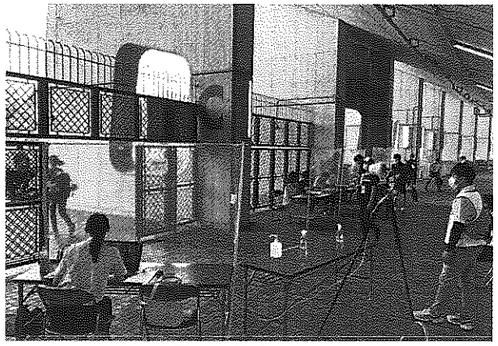
後述する隔離室対応や，入場ゲートでの体調管理チェックシートの確認のため，例年より人員を増やし，医師2名，看護師2名の体制とした。また主に救護活動に従事するトレーナーは1日あたり12～13名（うち女性3～4名）が活動を行なった。

・入場手続き

大会出場者及び競技役員の健康管理については，入場ゲートでの受付時に競技会前1週間の体調管理チェックシート（日本陸連書式による）を提出することにより，症状発現がないことを担保した上での入場となった。入場ゲートは，競技役員入り口と選手入り口を各1ヶ所ずつ設定した。

体調管理チェックシートにはADカードと共通の番号を記載し，競技日程に従い1日ごとに各1枚の提出を必須とした。選手は出場予定種目の開催日にのみ入場可能とし，先述のADカード受付時に，所属チーム（学校）ごとの出場種目リストにて確認を行なった。競技役員ゲートでは，取材申請者も提出を義務とし，事前に体調管理チェックシートを陸協ホームページから入手可能な状態にした。

また入場時にはサーモカメラ（株式会社城山）にて体表温度の監視を行なった。各ゲートに1台ずつ設置（複数名同時に検温可，自動アラート付き）し，ゲート通過者の体調確認の一要素として扱った。サーモカメラによる体表温度の測定では，深部体温の予測や，感染症のスクリーニングとしては難しい部分もあるが，自己申告による体調管理チェックシートと合わせて，体調不良者来場への抑止力として期待した。サーモカメラにて一定の基準値を超えた場合には改めて別の方法で検温することで，大人数のゲート通過者に対応する手段とした。なお，レース直後などの入場時に体温が高い場合には，少し日陰で休ませ，それでも下がらなければ入場させずに帰宅させる方針をとったが，実際にはレース直後という理由で発熱がみられた事案はなかった。

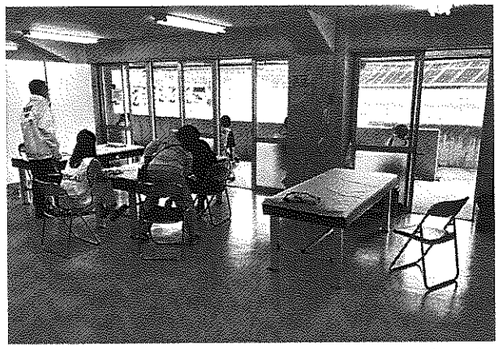

<写真1 選手ゲート>

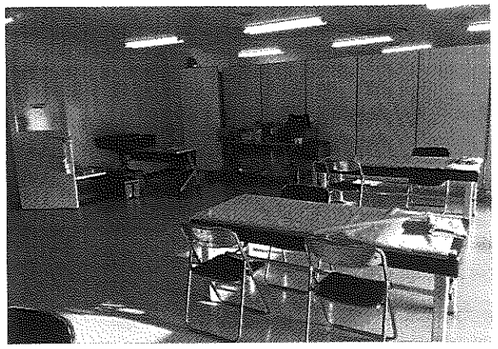
<写真2　競技役員ゲート>

・医務室について

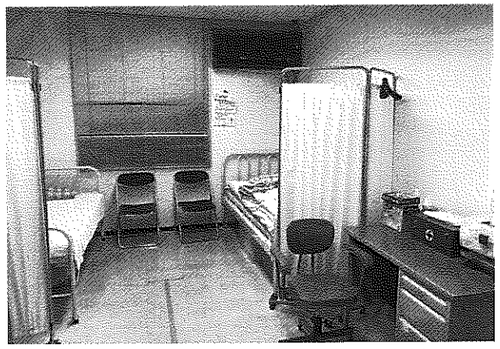
今回兵庫選手権が開催されたユニバー記念競技場は，本来の医務室が競技エリアに面しておらず，競技エリアの監視と搬送時の導線に問題があるため，ゴールに最も近い会議室をパーテーションにて区切ることで，特設の医務室として利用した。なお感染症対策如何に関わらず，これまでもゴール横会議室に特設医務室として開設し利用してきたが，利用者相互の間隔を広くとるため，これまでよりも大きく場所を広げて活動を行なった。また長時間の対応を行う傷病の場合，同室内で密接な状態が長く維持されてしまうため，医務室とは別に隔離室を3部屋準備した。咳や発熱，および熱中症等の時間のかかる処置の場合には，原則この隔離室を使用し，1部屋1人の対応とした。ただし，競技が原因ではない発熱や体調不良者の場合には，医務室や隔離室での観察はせず，すぐに帰宅を促す方針とした。

医務室への入室の際には体温を計測し，マスクの着用を必須とした。競技エリアからの搬送などで未所持の場合には，主催者で準備したマスクを配布した。また重傷事例以外の付き添い者の入室は禁止とし，可能な限り密集状態を生まないようにした。医療スタッフによる医務室での対応時は，マスク，グローブを着用することとし，フェイスシールドや防護服の着用は脱衣時の感染拡散の観点から嘔吐対応時以外は任意とした。





<写真3 ゴール横特設医務室>



<写真4 隔離室の一例（競技場本来の医務室）>

<写真5　マスク・グローブ・フェイスシールド着用の例>

・救護活動について

原則として，通常大会時の救護活動体制を維持することとした。配置箇所はゴール横，バックストレート付近，第４コーナー付近，およびウォーミングアップエリアに各2名ずつのトレーナーを配置し，実施種目に応じて臨機応変に移動し対応した。特に棒高跳や3000mSCは注意種目とし配置を工夫するとともに，過去の活動実績により中長距離種目や1600mリレー等の際には，嘔吐が多くみられることから，ゴール後の配置を拡充した。

基本的に常に2名での配置とし，1名は駆けつけ要因として，すぐにマスク・グローブ着用の上で選手に近付けるよう待機した。もう1名は状況に応じて防護具の着用，嘔吐の処理，搬送資材の手配・運搬などを行うとともに，継続実施の種目や周囲の観察を維持する役目とした。

吐物の処理はノロウイルス等の感染症と同様に行うように徹底した。手法としては，吐物に固形化剤をかけた上に使い捨てのペーパータオルをかぶせ，使い捨て塵取り（牛乳パックで製作）で除去した。さらに吐物を除去した後に再びペーパータオルを大きく広げ，次亜塩素酸ナトリウムをかけ浸した状態でしばらく消毒を行った。

医務室での対応と同様に，フェースシールドや防護服の着用は原則任意としたが，嘔吐対応の際には着用を必須とし，吐物の処理にあたった。

【主な対策準備物】

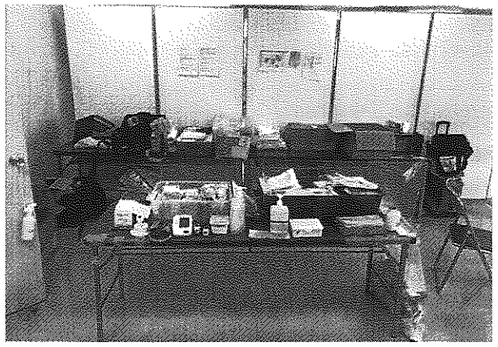
・通常医務資材（AED，スパインボード・車椅子，外傷処置資材，血圧計・体温計等，使い捨てシーツなど）

・マスク，フェイスシールド，グローブ，防護服

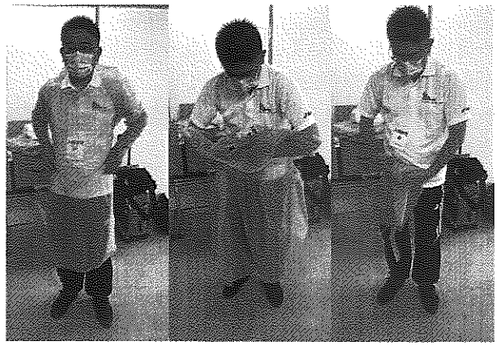
H.A.A.
HYOGO

・アルコール消毒剤，手指洗浄剤

・次亜塩素酸ナトリウム，ペーパータオル，色付きビニール袋，吐物固形化剤，使い捨て塵取り



<写真6　主な資材>



<写真7　防護服脱着の例>

【所感】

陸上競技大会が感染拡大を直接的に引き起こさず，かつ長い自粛期間を経た陸上競技を愛する選手に向けて，試合開催を安全に実施できたことが何よりであった。大会開催に向けた準備段階から「日本一安全な陸上競技会を」と謳い方針を策定したため，競技役員や選手には窮屈な面もあったかと思う。感染症拡大だけでなく，緊急事態宣言も含めた運動中止期間を経ての競技会ということで，傷病の増加も懸念の一つであった。実際には転倒や衝突などの事故，筋腱等の受傷などはあまりみられなかったが，当初競技日程の1日目の天候が悪く，警報発令により8月9日に延期されたことで，気温が高くなり，熱中症様の症状や嘔吐が多くみられた。

コロナ禍における大会開催の前提条件として，選手や競技役員など全ての関係者の体調不良や発熱はなく，かつ過去1週間の感染者や濃厚接触者との接触がないことが，参加者それぞれの自己申告によって担保されている。そのため，競技中の体調不良や受傷時にも，基本的には通常の大会と大きく異なる方針は打ち出さずに行なった。熱中症など対応に時間がかかることが予想される症例の場合には隔離室を用いたが，隔離室を1つ利用するだけで医療スタッフは1名割かれることになり，感染症対策を厳密にするほど，マンパワーが通常大会時よりも必要とされる。何事も起きずに無事終われば余剰な人員と思われかねないが，同時多発的に傷病者が発生すると人的，物的資源の両面が大きく求められる。陸上競技大会は平日を含め，数日間に渡り開催されることが多いため，医師やトレーナーなど医務スタッフの大人数の確保が難しい。今後も継続して，医務活動に協力してもらえる仲間を増やしていくことも重要な要素となる。

感染収束を待ちながら，可能な限り陸上競技に関する活動を止めずに維持するには，選手も含めた全関係者の当事者意識が重要になってくる。入場時にもサーモカメラや体調管理チェックシートで確認は行なっているものの，ゲートでの感染症のスクリーニングというよりは，来場者の日頃の体調管理に対する危機感を向上させ，感染拡大行動の抑止力としての機能が大きいと感じている。参加者規模や予算によっては同様の準備が難しい場合もあるが，陸協主催かに関わらず，兵庫県下のあらゆる陸上競技大会が安全で安心な大会になることを願っている。このことが参加者の健康を守るだけでなく，陸上競技界やスポーツの尊厳を守ることにもつながると考えている。医事委員会では今後の大会開催の拡充や，観客入場の再開に向けて，陸協や大会主催者と共に更なる準備や仕掛けを工夫しながら，陸上競技を支えていこうと思う。

（兵庫陸協医事委員会 松尾信之介）